森の四季 Vol.154

只見町ブナセンター
TEL 0241(72)8355

（写真・文 太田祥作）

キバシリ

（学名：*Certhia familiaris*）

【スズメ目キバシリ科】

▲ 背側は褐色のまだら模様で、樹皮に紛れこむ保護色。左の写真では細長く特徴的な嘴が確認できる

冬の只見町は積雪が多いため、隠れ家や餌場が雪に覆われてしまった小鳥の大部分が、より雪の少ない地域へと渡ってしまいます。その傾向は、草地や藪を棲みかとする種で顕著ですが、樹上を棲みかとする種は冬でも比較的よく観察されます。後者の中でも、樹上生活に高度に適応した小鳥の１種がキバシリです。

キバシリの名は「木走り」に由来し、キツツキとは異なるグループの鳥であるにもかかわらず、キツツキ同様に木の幹に垂直にとまるばかりか、自在に幹の上を移動することができます。これは、尾羽が身体を支えられるよう硬く丈夫にできているためで、こうした尾羽はキツツキにも見られる特徴です。しかし、キツツキの嘴が太くノミのような形をしているのに対し、キバシリの嘴は細長いピンセットのようで、下方にゆるやかにカーブしています。この形の違いは、餌の違いと関係しています。キツツキは嘴で木に穴を開けることができ、朽ち木の中から餌の昆虫を掘り出すのに嘴を用います。それに対して、キバシリは樹皮の下に潜んでいる昆虫やクモを餌としており、樹皮の隙間に差し込むのに好都合な嘴を持っているのです。なお、地上に降りることは滅多にありません。

このように風変わりな生態をしたキバシリですが、体長は１４㎝と小さいうえに、樹皮に溶け込む地味な羽色をしていることから、森の中で発見するには少々手強い相手でもあります。「チィー、チィー」と高い声で鳴くので、耳を澄ませ、鳴き声を頼りに木々を眺めると発見できるでしょう。

只見町ブナセンターからのお知らせ

「ただみ・ブナと川のミュージアム」では下記企画展を開催中です。
皆様のお越しをお待ちしております。

企画展「自然素材を活かす技
～木地、編み組、草木染めと伝承産品の魅力～」

会　期：２０２２年１０月２９日(土)～２０２３年３月２７日(月)
場　所：ただみ・ブナと川のミュージアム　２階ギャラリー

※この広報紙は再生紙を使用しています

VEGETABLE OIL INK
※環境にやさしい大豆油インキを使用しています

■ 発行／只見町　〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下2591-30
■ 編集／総務課総務係　https://www.town.tadami.lg.jp/　☎ 0241(82)5210